

2023 年度 3 年次 3 月 (2021 年 4 月 入学・完成期)

「学びと成長の歩みの記録」アンケート(概要版)

「学びと成長の歩みの記録」の概要

立教大学では、2021 年度に入学した学生を対象に「学びと成長の歩みの記録」(学修状況調査)のアンケート調査を実施しました。

「学びと成長の歩みの記録」のコンセプトは「学生自らが、[RIKKYO Learning Style](#)の各学修期(『導入期』『形成期』『完成期』)に合わせて自身の学修成果をふりかえり、成長の変化を自覚できること、そして、大学としてその結果を分析・検証し教育の改善に活用すること」です。

今回は 2021 年度学部 1 年次入学者(2021 年 4 月 入学)を対象に、完成期中間時点の 3 年次 3 月に実施しました。今後は卒業時に調査を実施し、「導入期」「形成期」「完成期」を通じた学びと成長の過程を追っていきます。

この資料では集計・分析結果の概要をご紹介します。アンケート調査にご回答いただいた学生のみならず、ご協力ありがとうございました。立教大学では、今回の結果を踏まえてこれからの教育の改善に活かしていきます。

実施時期：2024 年 3 月 5 日～2024 年 5 月 31 日

調査対象：2023 年度学部 3 年次生(2021 年 4 月 入学)

調査方法：全数調査(オンライン調査)

調査目的：RIKKYO Learning Style の「完成期」中間時点での学修成果等の把握を目的として実施することで、立教大学での学びや過ごし方について学生自身がふりかえり、大学としてその結果を教育の改善のために活用すること。

回答数と回答率

対象学生数：4,267 名 回答数：953 名 回答率：22.3%

学部	対象学生数	回答者数	回答率
文学部	814	225	27.6%
経済学部	625	117	18.7%
理学部	289	51	17.6%
社会学部	480	102	21.3%
法学部	546	120	22.0%
経営学部	337	55	16.3%
異文化コミュニケーション学部	146	38	26.0%
GLAP*	19	7	36.8%
観光学部	246	73	29.7%
コミュニティ福祉学部	466	88	18.9%
現代心理学部	299	77	25.8%
合計	4,267	953	22.3%

*注) GLAP: グローバル・リベラルアーツ・プログラム

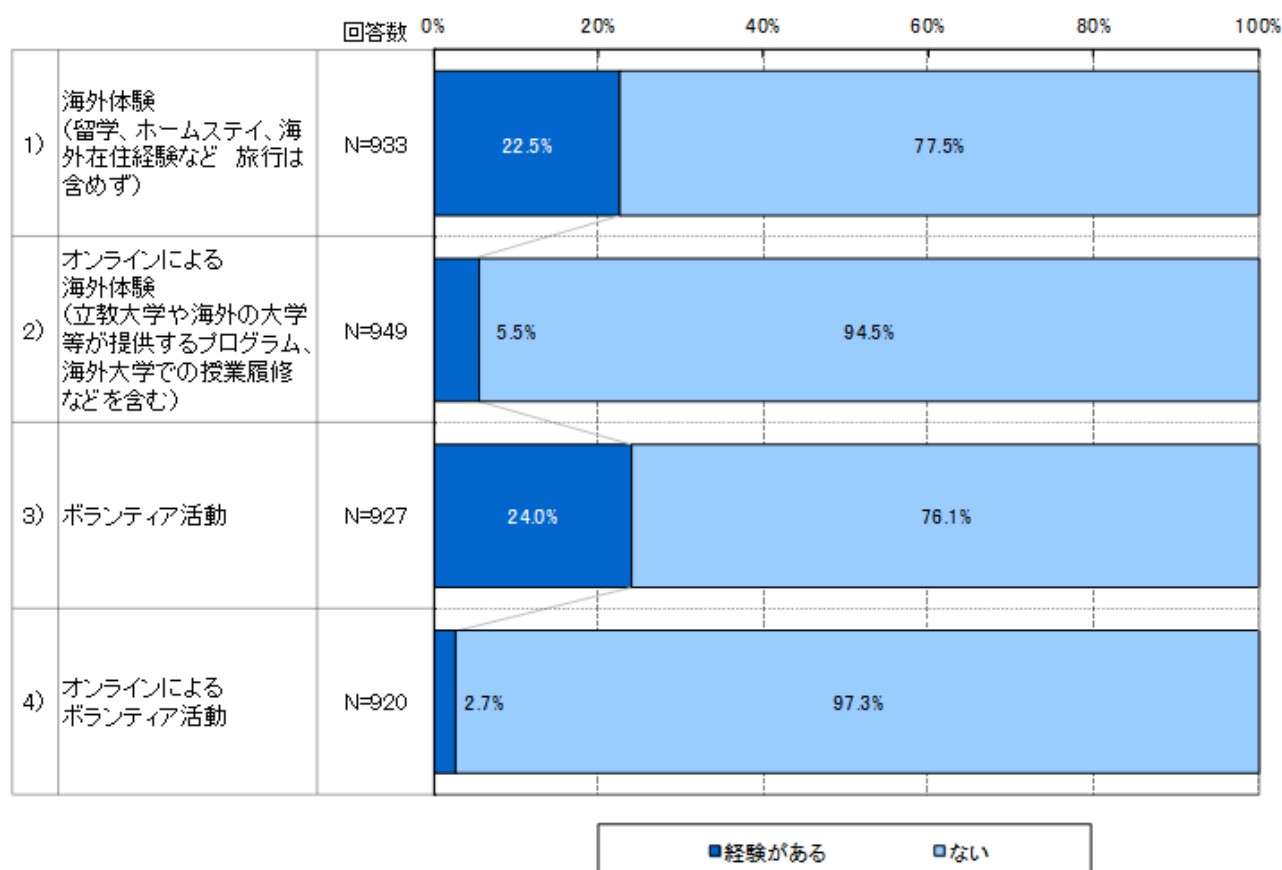
調査結果（概要）

本調査で得られた調査・分析結果の概要をご紹介します。

■Q1.3 年次春学期開始から3年次秋学期終了までの経験

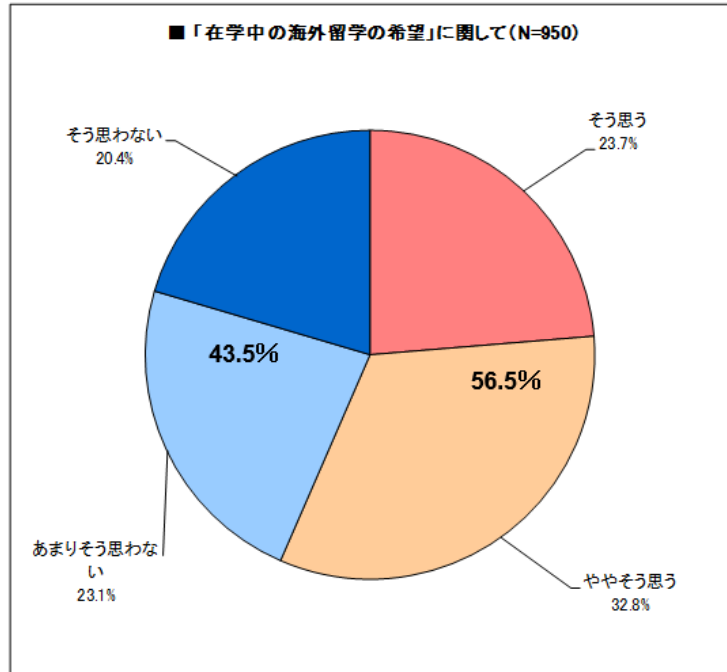
- 海外体験を経験した学生は22.5%、オンラインによる海外体験を経験した学生は5.5%、ボランティア活動を経験した学生は24.0%、オンラインによるボランティア活動を経験した学生は2.7%でした。

■「3年次春学期開始から3年次秋学期終了までの経験」に関して



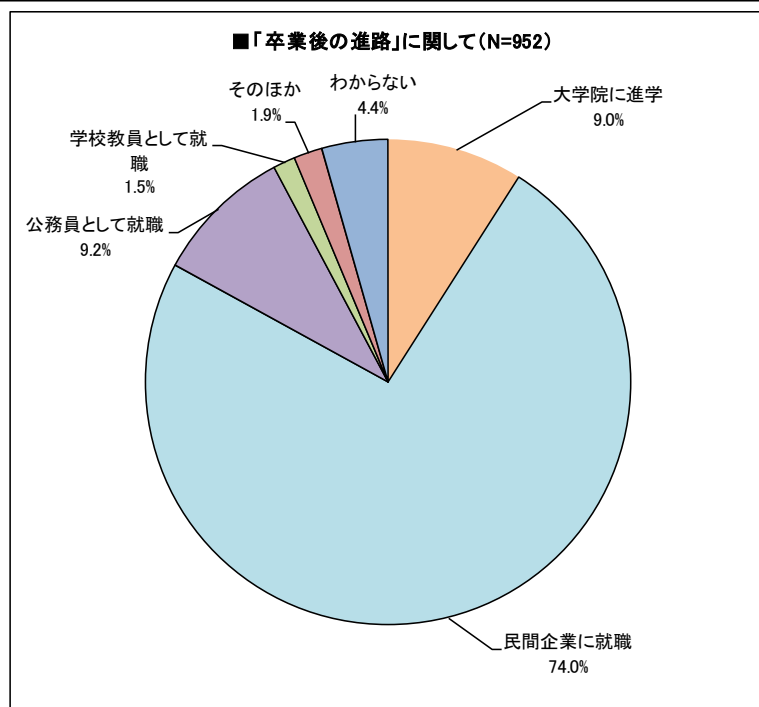
■Q2. 在学中の留学意向

- 在学中の留学に対する意向を尋ねたところ、「そう思う」が 23.7%、「ややそう思う」が 32.8%、「あまりそう思わない」が 23.1%、「そう思わない」が 20.4%で、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると、過半数の学生が留学したいとされていることがわかりました。



■Q3. 卒業後の進路意向

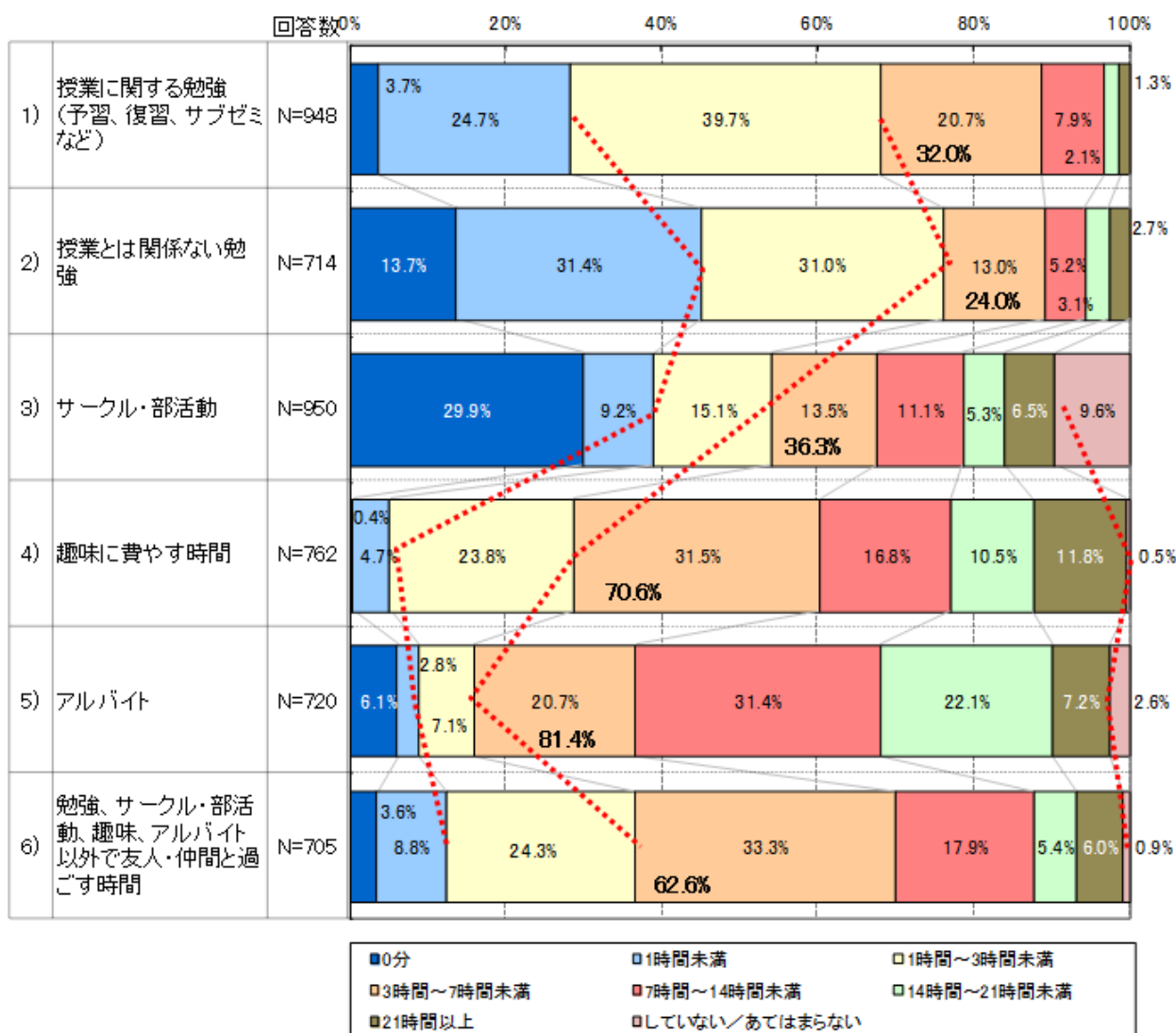
- 卒業後の進路の意向について尋ねたところ、「民間企業に就職」が最も多く 74.0%、「公務員として就職」が 9.2%、「大学院に進学」が 9.0%と続いていました。



■Q4. 学生生活（1週間あたりに費やした時間）

- 3年次春学期・3年次秋学期の授業期間にそれぞれの活動に費やした時間（1週間あたりの平均）を尋ねたところ、授業に関する勉強では、「1時間～3時間未満」が最も多く39.7%、次いで「1時間未満」が24.7%となっていました。授業以外での勉強では、「1時間未満」が最も多く31.4%、次いで「1時間～3時間未満」が31.0%となっていました。
- サークル・部活動では、「0分」が最も多く29.9%、趣味に費やす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く31.5%、アルバイトでは、「7時間～14時間未満」が最も多く31.4%、これら以外の友人・仲間と過ごす時間では、「3時間～7時間未満」が最も多く33.3%となっていました。

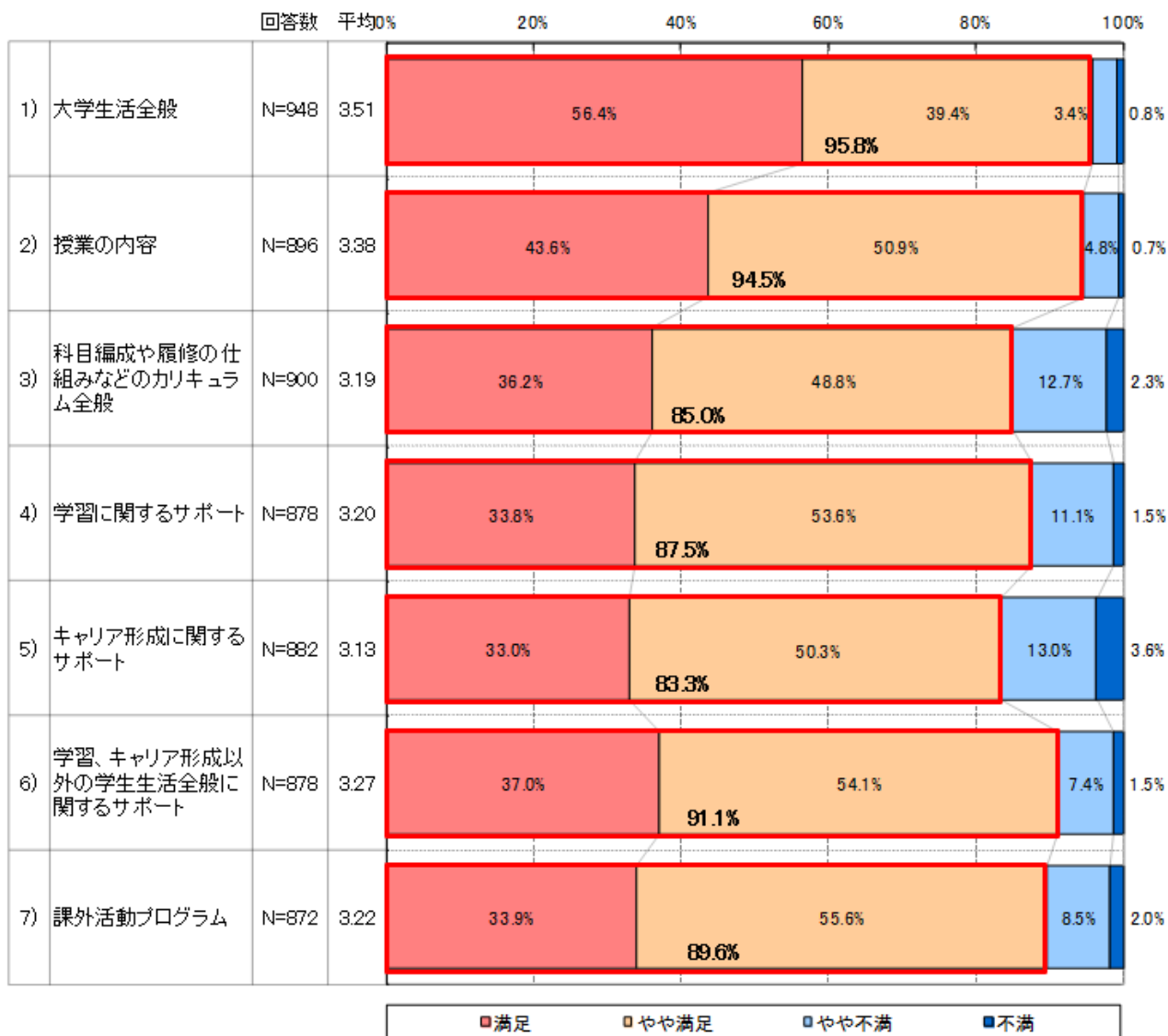
■「3年次春学期および3年次秋学期に各活動に費やした時間(1週間あたり)」に関して



※1)授業に関する勉強、2)授業とは関係ない勉強の2つの質問には「していない/あてはまらない」という選択肢は用意していない。

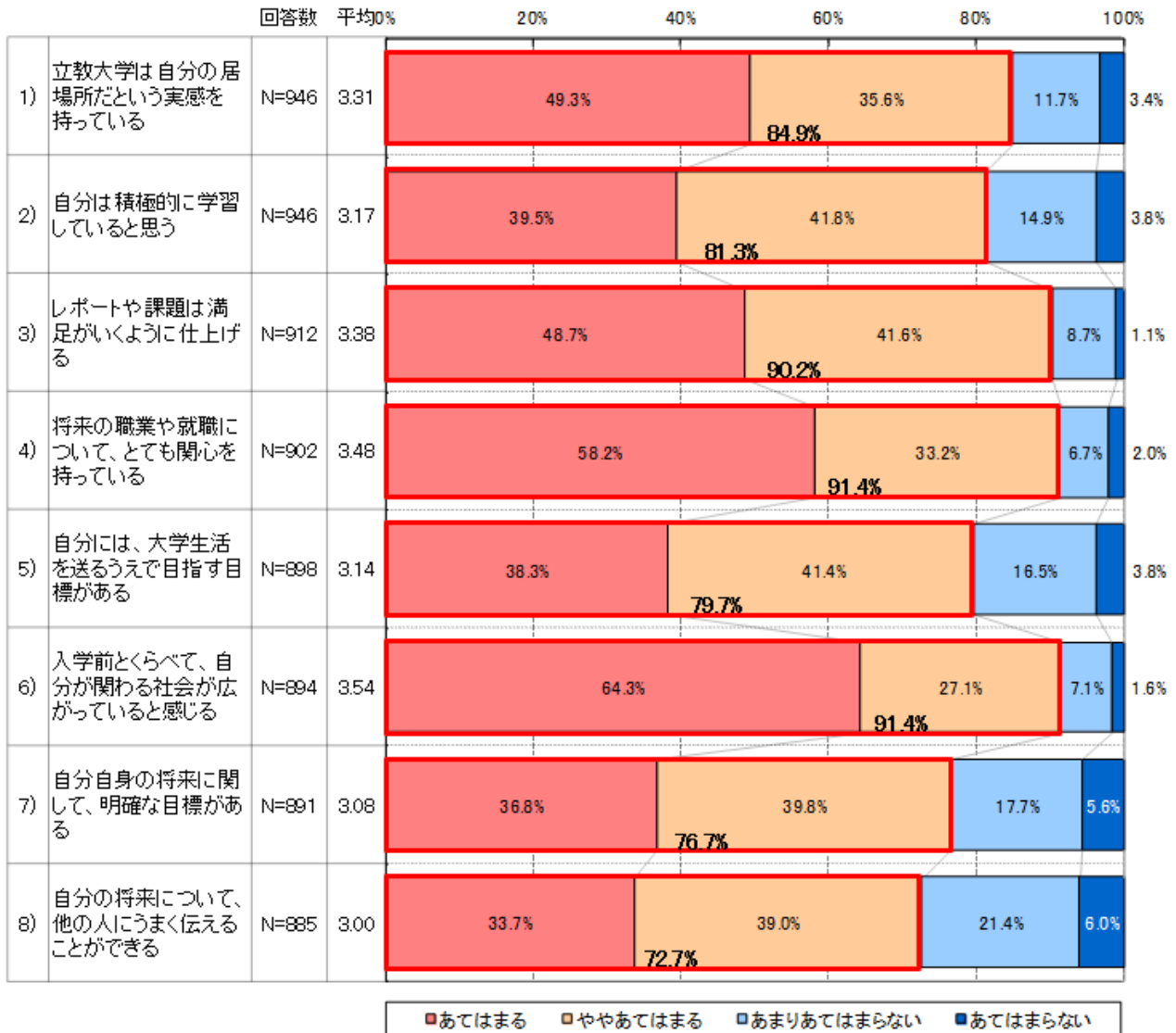
■Q5. 満足度

- 立教大学の各項目への満足度を尋ねたところ、「満足」「やや満足」を合わせると、全ての項目で8割以上の学生が立教大学での授業やサポートについて満足していると回答していました。肯定的な回答が最も多かったのは「1) 大学生活全般」で95.8%でした。一方、肯定的な回答が最も少なかったのは「5) キャリア形成に関するサポート」で83.3%でした。



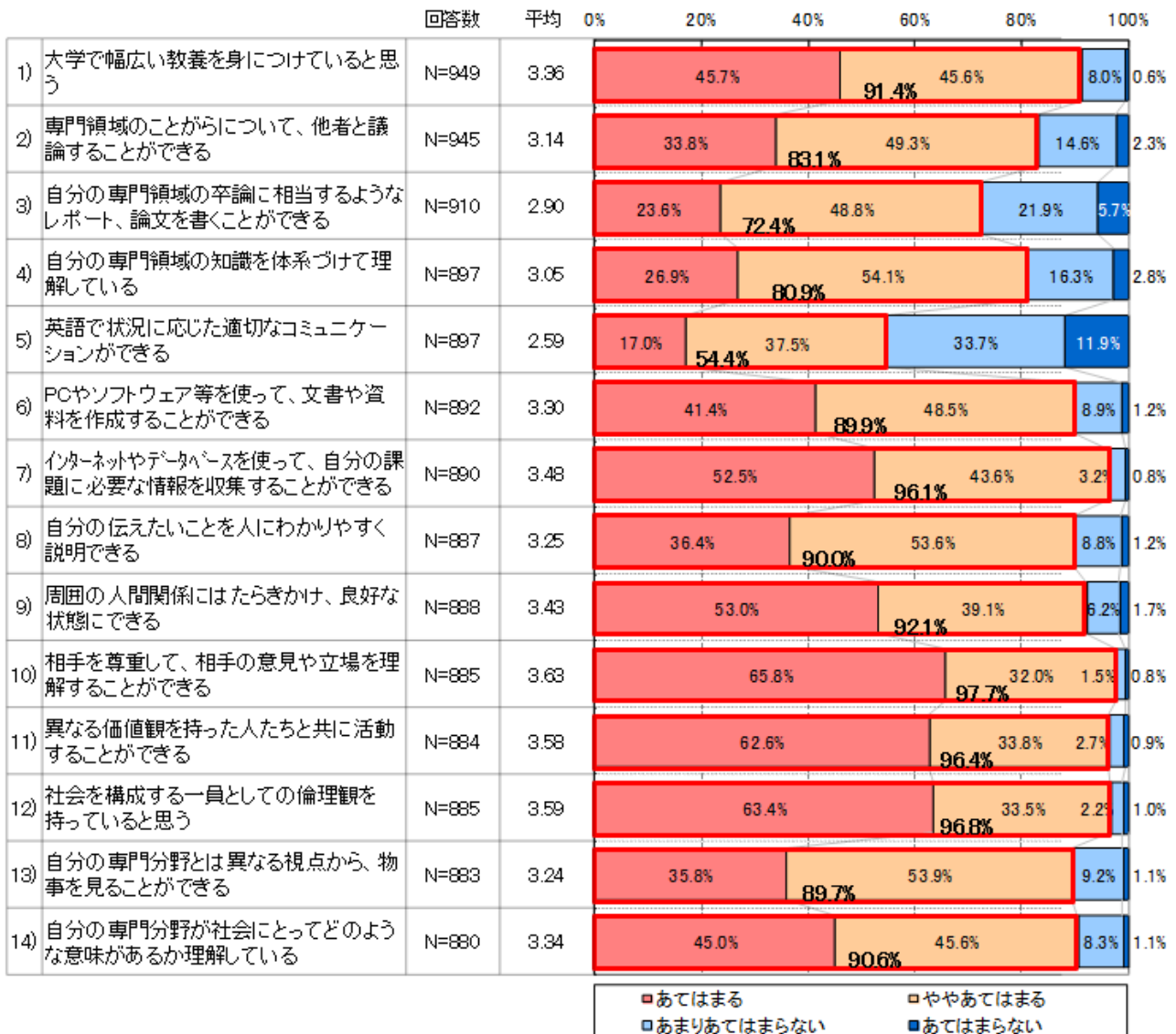
■Q6. 大学生活・学修について

- 大学生活や学修についての認識について尋ねたところ、全ての項目で7割以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。



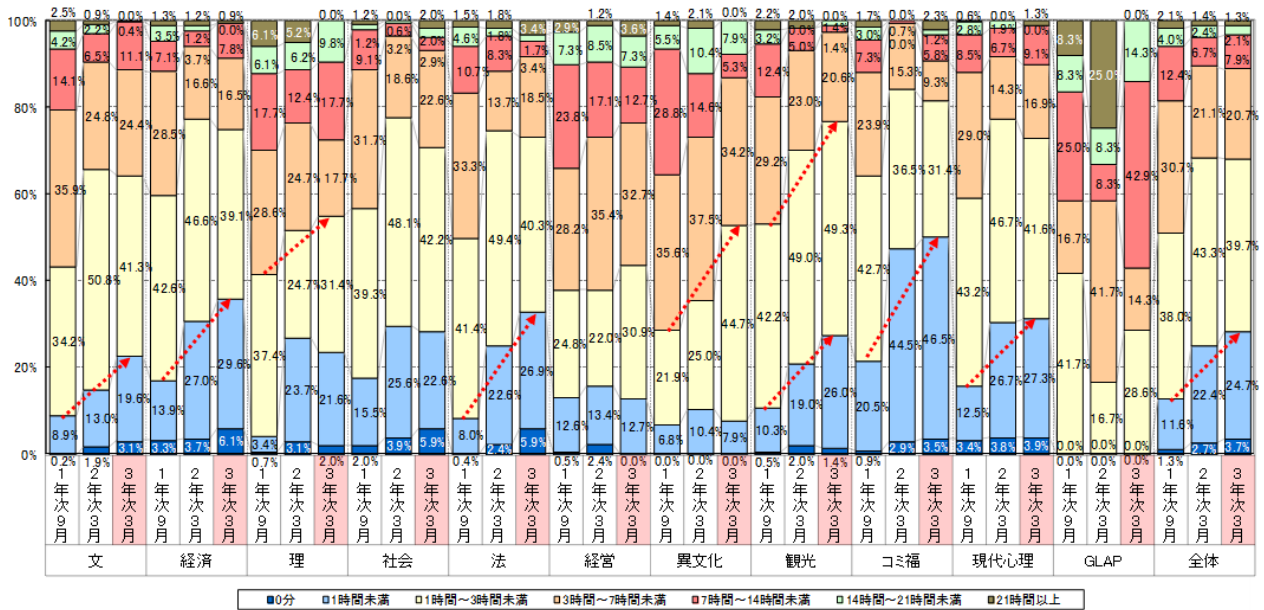
■Q7. 「立教大学 学士課程教育の目的」の学修成果

- 立教大学の学士課程教育の目的(ディプロマ・ポリシー)と関連する各項目について尋ねたところ、全ての項目で半数以上の学生が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していました。特に、「相手を尊重して、相手の意見や立場を理解することができる」は 97.7%の学生が肯定的な回答をしていました。
- 一方、Q7.5 の英語によるコミュニケーション能力を尋ねる項目は「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた回答が 54.4%と他の項目と比べて低く、課題のある結果となりました。



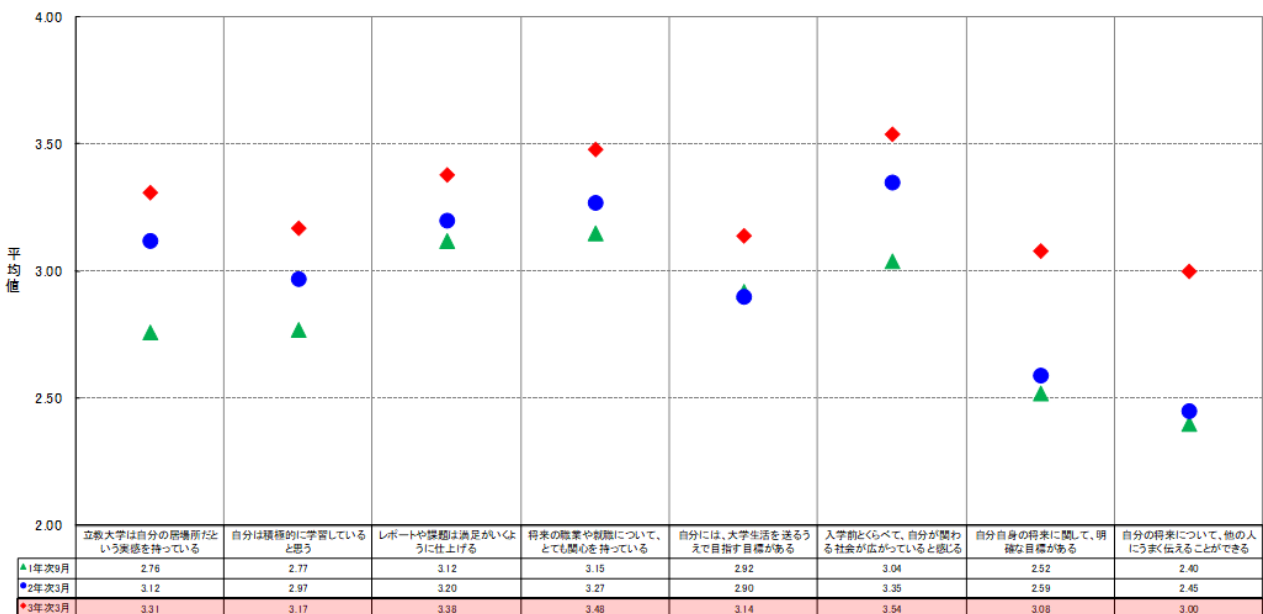
■ 〈授業に関する勉強〉に費やした時間（1年次9月、2年次3月調査時点との比較）

- 時間が短い層の目安として「1時間未満」までの合計で比較すると、文学部、経済学部、法学部、観光学部、コミュニティ福祉学部、現代心理学部で「1年次9月」から「3年次3月」にかけて一貫して増加しており、〈授業に関する勉強〉の時間は短くなっていました。
- 時間が長い層の目安として「3時間以上」を合計したところ、理学部、異文化コミュニケーション学部、観光学部で「1年次9月」から「3年次3月」にかけて一貫して減少しており、〈授業に関する勉強〉の時間は短くなっていました。



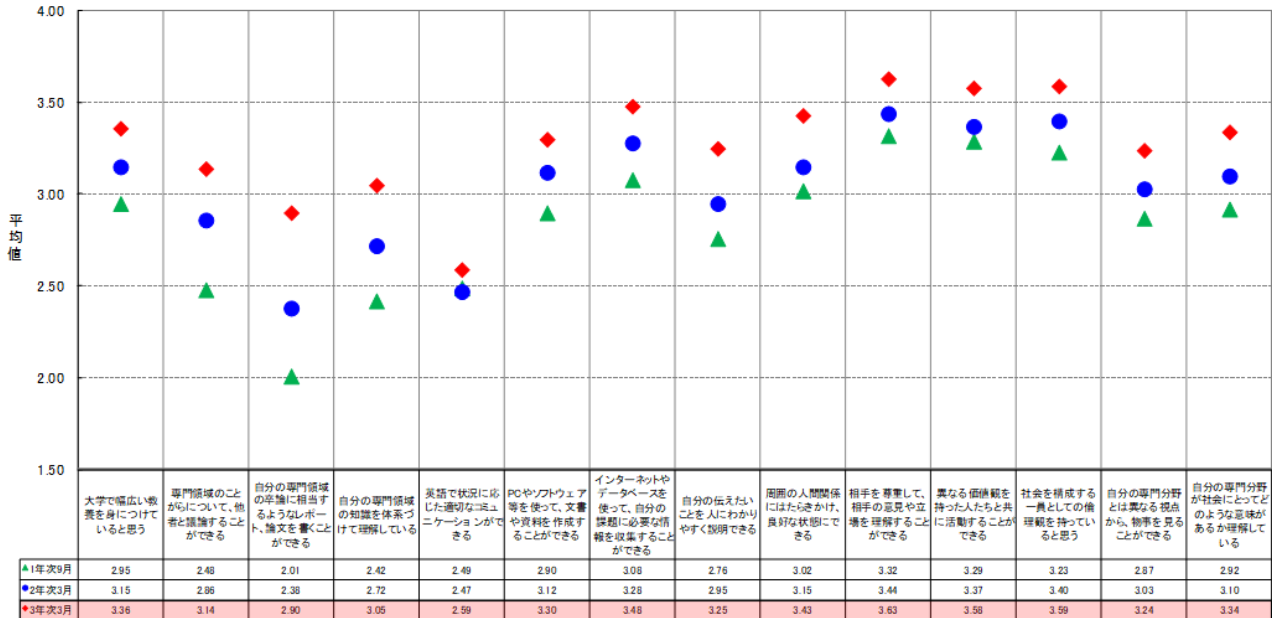
■ 「自分自身の状況」(1年次9月、2年次3月調査時点との比較)

- ほぼ全ての項目で「1年次9月」から「3年次3月」にかけて一貫してスコアが増加していました。



■「身につけている能力」(1年次9月調査時点との比較)

- ほぼ全ての項目で「1年次9月」から「3年次3月」にかけて一貫してスコアが上昇していました。
- ただし、「英語で状況に応じた適切なコミュニケーションができる」は上昇の幅が小さい結果となっていました。



2024年12月

立教大学 大学教育開発・支援センター 教学 IR 部会